

【授業の到達目標および概要】

到達目標： 提示された小児疾患の症例について、診断・病態生理・治療・生活指導を、患児の成長発達のみならず家族環境や社会背景をふまえて説明/提案できる。

概要： 小児期は成長発達の途上にあることと本人の訴えがわかりにくいことから、状況の理解が難しいことが多い。また、問題の背景に、家庭の問題や社会環境の問題が潜んでいることも多々ある。本講義では「小児期の成長発達とその異常」をテーマに、具体的な症例を paper patient として提示し、学生自身の力で、診断、病態生理、治療、生活指導などを導きだしてもらおう「チュートリアル方式」で行う。

「チュートリアル方式」の目的は、自ら考えて学び問題解決に向かう実践的な問題解決能力を養うことにある。いかに有効な自己学習とグループ討論を行うかがポイントとなるので、積極的な学生の参加を期待する。

【授業計画】

総合講義：概論「教員紹介と授業の進め方」

- ①② 提示された症例についてグループ討論
- ③④ 提示された症例についてグループ討論
- ⑤⑥ 症例について発表
- ⑦⑧ まとめ

【授業外学習】

1・2回目の授業で次回までに学ぶべき学習項目を抽出して自己学習する。3・4回目の授業終了後、5・6回目の授業で発表する課題のまとめを各自パワーポイントで作成する。

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度と発表内容による。

【教科書】

指定なし

【参考書】

指定なし

【教材】

プリント配布